

“今日よりいい明日はない”と云う生き方

～低成長時代を豊かに楽しむ知恵～

榊原英資 東洋経済新報社

1941 年生まれ東大経済学部卒、大蔵省入省後ミシガン大学で経済学博士号取得
ハーバード大学客員准教授、大蔵省国際金融局長・同財務官、1999 年退官。
慶應義塾大学・早稲田大学教授歴任、一般財団法人インド経済研究理事長。
著書にはインド巨大市場を読み解く、国家の成熟等の著書多数。

(はじめに) 成熟社会はエンジョイするとうまく行く～ポルトガル絶頂期の
教訓「今日よりいい明日はない」は人生の知恵、今こそ頭を切り替える時期です
“豊かな低成長” 日本を含めた先進国では不足から過剰の時代に入り人々の関
心は不足感を満たす事へと転換しつつある、日本は環境・安全・健康の 3 点で世
界のトップランナーでいたずらに高い成長率を求めるのではなく成熟した社会
を楽しむ豊かな国を目指す低成長こそ、これからの日本の生き方なのです。

クリエイティブになる為には少し遊んだ方がいい、中産階級の没落で労働の質
を高める必要があり創造性を求められ心の余裕・遊ぶことも大事で新しい発想
と質の高さで評価される、その為に人生を楽しむことが不可欠です。

第1章 低成長の時代に入った日本～成熟した日本では「物価上昇目標 2%」は
無理、グローバリゼーションの進展で先進国の物価レベルは緩やかに押し下
げられている、一国の金融政策だけで物価を 2% 上昇させるのは無理で、エコ
ノミストの水野和夫氏は現在の世界は中世以降で 4 回目のデフレ期に入っ
てこれから百年はデフレ期が続くと予測、今の日本経済ではデフレの不景気
とは無関係で無理に物価を押し下げる必要はありません。

* BRICs (ブラジル、ロシア、インド、中国) も成長が鈍化している～ブラジ
ル、ロシアでは石油等の資源価額の落ち込みもありマイナス成長さえ記録。

* 構造改革の余地は残っていない～日本経済は自由にできる場所はもう自由。

* 今日の成長と GDP の成長は別～今の日本は十分豊かで更に欲しい人は少ない

* 世界にフロンティアはもう存在しない～グローバル資本主義が成長を続ける
にはフロンティアが必要で開発国や地域を新たに開発して成長してきたが、
今の世界はアフリカ諸国が最後でその成長も長くは続かない IOT や AI (人工
知能) でもフロンティアにはなりえない。既存の世界を効率化するだけでは
経済のパイは大きくなる、水野和夫氏は「近代資本主義の終焉」と読んで
いて 1 国の経済政策で容易に変えられるものではないと。

* 統合から分離へ～グローバリゼーションの限界～英国が EU から分離方向、
米国も TPP 離脱を決定、統合から再び主権国家へ分離の方向にあり P 1

日本としても如何に舵を切るか、今のうちに考えておくべきだ。

- * 企業や産業は量より質の時代に～内需型企業はモノ作りよりもサービス中心つまりハードからソフトに需要が変わりつつあり、自動車も自動運転の様に安全性の強化が求められている。
- * サラリーマンの給料は上がらない・他の先進国も同じ、プロフェッショナルの仕事の報酬は維持か、むしろ上昇、ルーティン作業のホワイトカラー賃金では中国・インドの人達との競争で大幅に下げざるを得ない。
- * 政府は戦略の転換を～名目GDPの国民一人当たりでは人口1千万人以上で比べると日本は欧米諸国とほぼ同じで社会の完成度を測る「環境・安全・健康」の面では日本はトップレベルにあり、日本政府には成熟度戦略が必要とされている、但し企業のレベルでは成長はありえます。

第2章 成熟社会とは何か～不足から過剰に転じた時に成熟社会が始まる。

日本は資本主義経済の最終段階の成熟期を迎えている、水野和夫氏は未曾有の低金利状態は企業の利潤率の低下、消費機会が消滅するところまで消費が行き渡った結果だと、そして日本では近代資本主義は終わったと。

- * ゼロから1%成長で充分～成熟社会として日本は明かにトップランナーです、先ず環境大国～森林率68、5%世界第3位。海洋面積で世界第6位。安全な国～2005年犯罪率9、9%でOECDの中でスペインに次ぐ低さ。国民の健康度＝平均寿命は世界一。食文化と国民健康保険制度は世界トップクラス。
- * 成長から「格差」に課題が移る～グローバル資本主義の進展では、中産階級が二分化、高付加価値の一方で単純労働者は取り残される危険がある、今政府に求められているのは成長戦略より格差解消です。一般サラリーマンの年収は4～500万円、トップとの収入はその10倍程で米国では400倍と格差が開いている、日本では正規雇用比率が1990年の20%から2010年37、5%と急増しているので国の介入が必要。
- * 格差解消の為にヨーロッパ型の大きな政府に～財政規模拡大(消費税増税)は必至で低所得者への手当を厚くする、フランスでは出産・育児・教育は国が面倒を見て、財政規模は大きく消費税率20%
- * サラリーマンはプロフェッショナルの時代に～一流大学を出て大企業に入れば安泰と云う時代は終わる。
- * 日本らしい豊かな成熟社会の為に～江戸時代の前期は高度経済成長が続き、人口も2倍近くに、文化文政の頃には文化が開花～浮世絵の葛飾北斎・俳諧の小林一茶、十返舎一九、滝沢馬琴など輩出し化政文化が栄えた低成長時代には三大改革～享保・寛政・天保で儉約に勤め物価は安定、養生所を作り・庶民の生活安定で所得の再配分がなされた。

第3章 “環・安・健”が豊かさを生む～豊かさを維持するための P 2

日本の3つの強み～人間本来の目的は幸福の追求です、環境の良さは心の余裕や豊かさに繋がり海外に発信で観光資源ともなり経済力にも繋がる日本社会の安全や健康の強みも社会の豊かさや経済的豊かさの維持に繋がっている。

1. 環境の良さ～①世界に関わる森の国 ②日本ほど川魚が美味しい国はない(川の水の美しい所に生息する鮎・山女・岩魚) ③海洋大国～海の魚介類の豊かさも世界有数で沿岸部は世界三大漁場の一つ、海の鉱物資源は日本の宝で世界4位
2. 安全～①先進国で最も低い犯罪率・人口比 9、9% 英国 21% 米国 17、5% ②平和な歴史が生んだ安全と云う遺産～2000年の歴史の内日本程長い平和を享受してきた国は殆どない日本社会の安全さは今も昔も欧米人の驚きの的 ③安易な移民政策は安全文化を破壊する～日本人がやりたがらない仕事をさせるのは問題、高齢化で要介護の仕事を海外の人に押し付けるのも問題、日本社会は移民受け入れの文化がないので安易な受け入れは無謀 ④目先の経済性より安全文化の方が重要～移民に関する経験もノウハウもある欧州諸国でさえ難しいのに日本では無理。
3. 健康～①日本人の健康度は世界一、平均寿命は 83、7 歳(健康寿命 72、7 歳)世界一位、成人の肥満度も 4、5%と先進国の中で一番低い、米国は 31、8%と日本の 7 倍 ②国民皆保険制度が経済格差是正と安全と環境を守る働きもある ③国民健康保険制度を守る為のポイント～人工透析の人は年間 5 百万円の公的負担、高額な癌治療者は 1 千万円以上も保険から支払われる場合もあり自己負担を増やす方向が必要、近い将来医療は予防にシフトを移す

第4章 農業・観光・地方文化～農業は“日本力”～農業生産額は9兆円近くもあり日本は世界5位の農業大国と云う見方もある(浅川芳裕著、講談社+α新書) 農業技術は世界トップクラスだと云える、日本の農業は急速に変わってきており全国的に直売所が次々にでき、伝統ある地場の野菜をブランド化(京野菜・東京野菜・加賀野菜)に成功している、日本の食料自給率が低いのは主に小麦やトウモロコシ・大豆等の輸入で穀物以外は国産で賄われている、野菜や果物などは品質の高さから海外の消費者にも十分に魅力的。

- *日本の農産物をブランド化して世界に売る～神戸牛・松坂牛は認知されているが全国の生産農家が一致協力して農畜産物を政府も協力して行うべき。仏のシャンパンはシャンパーニュ以外で作られたものがシャンパンと名乗ったら法律で罰せられる、世界的に品種登録して特許を取得すれば海外企業等とライセンス契約も出来よう。レンタル農業のビジネス化～市民農園が大変な人気で体験型観光の一種とも見ることが出来て農地法の改正や政府・地方自治体のバックアップがあればニュービジネスに発展の可能性もある。
- *農業のポテンシャルは観光にも生かせる～棚田の光景は独特の美しさ P 3

- * グリーンツーリズムとミュージックツーリズム～オーガニック農業をやっている農家に民泊する人の増加と人気は世界的に注目されている。地方で音楽フェスティバルがあると波及効果もあり新しい観光の在り方の一つです。
- * 観光資源としての“日本力”の数々～外国の人にとって最も興味深くよく知られている日本文化は「サムライ」と「忍者」で日本の歴史的文化は観光の大きな源泉となりうる。
金沢の兼六園は雪の庭園の美しさが見事で、上手くアピールすることが重要。温泉文化も観光資源で宿泊施設もあり海外の観光客を呼べる。
- * 町の美しさ・清潔さも観光資源～大都市にもスラムがない（世界の大都市にはスラム化現象も）シャワートイレは海外の人にとって大きな驚きでもっと、いろいろ見つかるはずです。
- * 中国からの観光客に魅力的なのは歴史ある建物、森林風景、温泉・・・
- * **廃県置藩で地方活性化**～現状は国から地方に流れるお金について使い道に国が口を出し過ぎ事と国と都道府県・市町村という三層構造の中でお金の無駄遣いをしてしまう場合がある（行政サービスのダブリ・不足）都道府県は 47 あり江戸の頃の藩は 300 程で丁度いい規模で地方の観光客を呼び込める。越前カニや丹波栗等の旧藩名が残っていると独自文化を感じさせる。花火の技術は世界一の水準で歴史的背景発信により益々多くの海外客を呼び込める。
- * オフライン空間の必要性～成熟社会に於いては地方へと人口が戻っていく、素地があり IT 関係企業では敢て職場を地方に作る場所が増えている。
- * 成功する地方移住とは～古い文化の復権がカギ、温泉での湯治文化の復権等
- * ポストモダンのカギは近代で失われたものの復活がカギとなる。

第 5 章 **和食文化&新“環・安・健”日本力**

- * 和食にはポストモダンのヒント～世界中でブーム理由の一つは健康に良い事
- * 日本の食文化を自覚する～鮮度を保つ魚の血を抜く「**生き締め**」の技で新鮮な魚を食べられる、又和食の旨みの基本は昆布と鰹節のだしの技法と文化、又魚介の乾物から旨みの抽出、昆布干しアワビ等魚介の乾物、江戸時代の煎りナマコ、干しアワビ、フカヒレは江戸時代の対清貿易で「**倭物三品**」と呼ばれ非常に珍品、今でも中国の輸出品で日本産は最上とされている。
- * 地方の食を観光資源として活用～仏では有名なレストランが地方の観光資源
- * 地方の食文化を掘り起こす～富士宮市の焼きそば千葉県勝浦市タンタンメン等は日本中に知られる様になった温泉と食事は独立した観光資源として機能
- * 料理マスターズガイド～東京はミシュランガイドに紹介された三ツ星レストランの集積度は世界 NO1 地方にも独自の豊かな食文化があり十分には知られていない、農林水産省が毎年やっている“料理マスターズ”では地方の優秀な料理人を 6～7 名表彰・これらは確実に地方の観光資源、

料理マスターズガイドブックも出ているので活用すべき、私は有名レストランの隣には必ずビジネスホテルがある、更に有名レストランに宿泊できる形態があり、日本でもその「オールペルジュー協会」が2007年に発足。

- * 水力発電は成熟時代の日本の宝となる～河川利用に関する法律が古くダム湖の水の放流割合がかなり高い、小さな予算でダムと周辺設備で電力を大幅に増やせる、と元国交省河川局長竹村公太郎氏（年間2兆円以上と試算）
 - * 近代のゆがみがポストモダン時代の救世主になる～日本にはもう十分な数のダムが建設済みで安全基準が極めて高く半永久的に使える近代日本の遺産であり、火力や原子力に比べ環境負荷が小さいという恩恵を十分生かすべき。
 - * 江戸文化から世界一の環境技術～リサイクルも重要で古着を大切にす文化
 - * 建設・土木・鉄道・食品の安全は“日本力”となる～青函トンネルの技術が認められ海外で多くの海底トンネルを日本企業が手掛けている、又橋梁を作る技術も高くトルコでイスタンブール大型吊り橋も日本企業が建設した耐震レベルでは世界最高レベル、世界の高速鉄道で安全な走行システムでは日本の新幹線が世界1、事故も少なく人命も失われていない、発着時刻の正確性には海外の人も驚く、食品の安全性が高いのも日本の特徴で商品として出回っている牛肉の流通経路がキチンと把握できる仕組み等安全意識の高さが反映。
 - * 世界一高齢化社会が新しいビジネスを生む～犬によるセラピーで高齢者施設の利用者に様々な効用が現れる、犬との対話で発語が増え世話する事で運動量が増える、今のところ日本はアニマルセラピー後進国で今後は需要が急速に拡大の可能性はある。これから拡大するビジネスの一つは高齢化ビジネスと云われ健康寿命を延ばす新たなビジネスチャンスが期待されている。
 - * 和食が医食同源で世界一の健康度の高さの理由の一つは食文化で和食は世界中で大変な人気＝日本の新しい食文化・糖質制限食の海外展開～糖質ゼロ・オフ商品の開発は海外に輸出できる、中国や東南アジアで糖尿病が急拡大中、米国や欧州でも糖質制限食はかなり認識が広まり定着しつつある、糖質制限食が世界を席卷する可能性もあり先駆者でブームの火付け役は京都高雄病院理事長江部康二医師で同氏によると日本人の四大死因の癌・心疾患・肺炎・脳血管疾患の全てに対してかなりの予防効果が期待でき更に骨の老化・アルツハイマー等高齢者の病気の9割の予防にもなり糖質制限食で健康寿命は延伸。
～予防効果で日本の医療費削減～江部氏は糖質制限で医療費削減3、5兆円と。
- 第6部 **リオリエント**で江戸文化の再評価～西洋から東洋への回帰現象は欧米にも当てはまる、東洋文明はそもそも自然の中に生きる発想の商品が多い。
- * 近代文明のゆがみはファーストフードに現れている～栄養のバランスが崩れて肥満などの成人病拡大～欧米でベストセラー「ファーストフードが世界を食い尽くす」草思社刊、エリック・シュローサー著

- *ファーストフードから伝統食への回帰～今の米国人エリート達はファーストフードを食べない風潮と庶民は食べている二極化、日本程ファーストフードの多い国は他にない、コンビニ・ファミレスもそれに近い食べ物が多い。
 - *江戸文化の再評価～庶民は文化的に豊かな生活だった、農村も豊かだった。
 - *江戸時代には日本の「原型」がある～成熟社会の手本となる日本家屋原型・米食普及・入浴習慣・上下水道・し尿処理循環システムがこの時代にできた。
 - *地方文化の復活で東北や九州が独立国に？～地方固有の文化を見直すときに
 - 意識してほしいのは江戸時代の藩 300 は多少の調整が必要でも文化単位として地方復権と回帰促進には必要な事。
 - *日本の平等性の高さは世界的に珍しい～歴史家のスーザン・ハンレーが江戸時代庶民は豊かだった 19 世紀に生きるなら私は庶民だったら日本もし貴族なら英国がいいと、日本の武士はエリートで権力、富は地主と農民にあった。権力者が富を持たない事で世界的に見てユニークで非常に平等な社会だった。
 - *政界や財界の世襲が平等を脅かす～日本の多様性を保つ平等性は貴重な長所。
- 第7章 **成熟時代の心構え**～“今日よりいい明日はない”と云う生き方、今日をエンジョイするには“足る”を知る事。
- *長期休暇を当たり前にする～ポストモダン時代は量より質が求められる～幸福度調査で日本はかなり低く北欧諸国が上位、定年後の人生は自分を磨き、しっかり生きる心構えが必要。
 - *出世するより活躍する事が重要～心の満足が重要で自分の領域で活躍する事で幸せを感じるので充分。
 - *グローバルに働く為の英語とコミュニケーション能力～最低減に必要なのは日本力(環・安・健)を生かすだけでなく高品質の農業や工業が生み出す商品・日本文化を背景とした商品やサービスで日本企業がグローバルに展開する利益で日本社会への還元で最低限必要な成長は稼ぎだす。又グローバルな展開では単純労働ではなく付加価値の高い労働のできる専門分野の高い能力が必要とされている今の日本社会の問題点は英語力とコミュニケーション力で、人と積極的に会い英語力とコミュニケーション能力を身に着ける事です。
 - *お金より健康～ポストモダンではお金を貯める事で安心を得る考え方は通用しないと覚悟すべきだ 50 歳以上では健康の維持が優先順位の第1位でしょう 高齢になると知識を引き出す機能が衰えてくるので知識にタグをつける事です(知識の目印となる関連づけ・綽名をつける等)
 - *世の中に確かな答えはない～日本人の態度はぎすぎすする・クレームをつける幼児化傾向や子供達のゲーム弊害も心配、頭を柔らかい江戸時代の余裕を。
 - *成熟社会では成熟シンドームは捨て、共感できる身近な所から生み出される個性的なものを少しだけ身に着けゆっくり人生を楽しむ事が大切です。(完)